



おおみじ



第12号
平成30年 3月 1日

早いもので3月となり、どの学年も残りの日数は20日を切っています。まさにまとめの時期となっています。子どもたちは、4月から今までの間に多くのことを学び、多くのことができるようになりました。それぞれに個人差はありますが、どの子も成長した姿をしっかりと見せてくれています。



授業参観・学級懇談会

3月7日（水）は授業参観・学級懇談会があります。学校の様子や学校でのお子さまの様子を実際に見ていただき、学級の様子について懇談会を行ったり、次年度のPTA学級役員を決めていただいたりします。何かとお忙しい中ではあるかと思いますが、ご来校いただけますと幸いです。



桜の蕾は冬を感じて春を待つ

桜の花芽は夏に形成されると一旦休眠状態となります。その後、冬の低温にさらされることで眠りからさめ、開花の準備を始めます。そして春を迎え、気温の上昇とともに成長し、美しい花を咲かせます。桜の開花は冬の厳しい寒さを経験しなければいけない仕組みになっているそうです。桜は、四季のある日本だからこそ進化した植物なのです。

この話を聞くと、今回の平昌オリンピックで大活躍をしたスピードスケート女子の高木美帆選手のことが思い浮かびます。高木選手は、前々回のバンクーバーオリンピックで中学生ながらも代表に選ばれましたが、前回のソチオリンピックでは代表に選ばれず悔しい思いをしました。その後、年間300日の合宿で自らを追い込み、今回の平昌オリンピックで再び代表となり、1500mの銀、1000mの銅、チームパシュートの金の三つ目のメダルを獲得しました。まさに、スピードスケート選手として誰もが認める美しい大きな花を咲かせました。



ぜひみなさんも、いつかきっとそれぞれの美しい大きな花を咲かせてください。そのためには、厳しい冬の寒さも必要なのです。

（12号文責：校長 森 敦睦）